健康♪外来ニュース

若年者のがん

No. 54　令和5年10月15日

若年者の大腸がん

＊＊＊

過去30年間に20～39歳の大腸がん発症が約2倍に増加しました。大腸がんのﾘｽｸは、現在の35歳は昔の50歳と同程度で、15年若年化したと指摘されています（Nature　Reviews、2020）。

大腸がん若年化の原因として、子供の頃からの食事内容が疑われます。例えば果糖（小腸の吸収少なく高濃度で大腸に達して変調をきたす）、加工肉（ｳｲﾝﾅｰ、ｿｰｾｰｼﾞ、ﾊﾑ、ﾍﾞｰｺﾝなど、防腐剤などの発がん性）、酸化ﾁﾀﾝ（食品の白色色素、大腸粘膜で活性酸素を発生）等の大量摂取です。

対策型大腸がん検診は40歳からですが、AYA世代でも心配な症状などがあれば便潜血検査や大腸内視鏡検査を受けましょう！

医療法人　祥佑会

藤田胃腸科病院

〒569-0086　高槻市松原町17-36

TEL　072-671-5916

FAX　072-671-5919

健康♪外来

水曜日　14:00～17:00（要予約）

担当：中嶋

世界中でAYA世代のがんが急増している！

＊＊＊

AYA世代とはAdolescent and Young Adult：思春期・若年成人のことで、およそ15歳から39歳までを指します。就学、就労、結婚、子育てと生活環境が激変する時期でのがん発症は、本人はもちろん社会にとっても大きな損失です。日本ではAYA世代のがん発症は毎年2～3万人に上り、とくに30歳代に多いがんは、1位乳がん、2位子宮頸がん、3位胚細胞腫瘍（精巣・卵巣の腫瘍）、4位甲状腺がん、5位大腸がん、6位胃がんで、年々増加しています（国立がん研究ｾﾝﾀｰ）。

世界的にみると、G20の国々では25～29歳発症のがん患者が他の年齢層よりも急増し過去30年間に22%増加して最高水準に達しており、発展途上国ではもっと大幅な増加がみられます（Financial　Times）。世界中から集めたGBD2019のﾃﾞｰﾀで検討すると、年齢を少し上げた50歳未満でのがん発症患者は、過去30年間に79%、死者数も28%も増加していました（BMJ Oncology、2023）。また、最近約10年間に最も急速に増加した50歳未満のがんは、消化器がん（膵がん、胆管がんを含む）でした（JAMA、2023）。

若年者のがんが増えている理由については、検査体制や医療の進歩によって早期発見・診断されているだけでは説明がつかず、以前から指摘されている喫煙、飲酒、運動不足、肥満・やせなどに加えて、食生活の変化、環境汚染などの影響が議論されています。

高齢者だけでなく若者もがんの脅威にさらされています！

20～39歳のがんの８割は女性

＊＊＊

言うまでもなく乳がんと子宮頸がんが増えているからです。乳がんの発症には女性ﾎﾙﾓﾝ、喫煙、遺伝子（BRCA1/2）変異が関与します。ﾏﾝﾓｸﾞﾗﾌｨ、ｴｺｰ検査で早期発見できます。子宮頸がんは、性交渉によるﾋﾄﾊﾟﾋﾟﾛｰﾏｳｲﾙｽ（HPV）感染が原因です。現状では小6～高1の女子は無料でHPVﾜｸﾁﾝ接種が受けられます。男子への接種も推奨されています。